平成２２年度自主課題研究概要

「注意」と「構え」から見た、騙されやすさについての考察

電子情報学類　情報システムコース　３年　212 番　大西　陽

１．　概要

ある周囲の事物や事象の特定部分や心的活動の特定の側面に対し、選択的に反応したり注目したりするように仕向ける意識の働きや、それにより選択性を持つ特定の反応が維持されている状態の事や明瞭性を持つ特定の心的活動が意識の中心を占めている状態が「注意」、ある状況に対して、予期をしたり行動の準備状態をとることや、認知や反応の仕方にあらかじめ一定の方向性をもつことが「構え」。

視線を引きつけたり先入観の受けやすさで、騙されやすい人たちには共通点が存在するのか調べた。

２．　実験方法

注意や構えを生じるような課題を作成し、被験者を募った。

課題は、（１）マジック、（２）多義図形課題、（３）図発見課題、（４）文章記憶課題、（５）日常的知識課題、の 5 つを設けた。多義図形というのは、見かたを変えることで別の形が浮かび上がってくる図のこと。

被験者には、パワーポイントで課題を提示し、解答を紙に記録してもらった。そのお記録した紙を集計し、データとして纏めることで、男女の別や注意、構えの間に相関が在るのかを見た。

３．　結果・考察

図発見課題と文章記憶課題正答率、また、男女別の文章発見課題の正答率の２つで相関が見られた。図発見課題は、１つの図に隠されているモノを出来る限り発見してもらう、注意に関する課題で、文章記憶課題は構えを生じさせるような文章を読んでもらい、その後の設問でどれだけ正確に文章の内容を覚えていられるか、というもの。このことから、よくモノを見ることができる人は、先入観を受けにくく、騙されにくい、また、男性よりも女性のほうが騙されにくいのではないか、と考えられる。

〈引用文献〉

Macknik, S. L. et al. (2008). Attention and awareness in stage magic: turning tricks into research, Nature Reviews Neuroscience,9, 871-879.